

## 地理的分野（第7学年）学習指導案

島根大学教育学部附属義務教育学校

- 1 単元名 第3章 世界の諸地域  
第3節 アフリカ州  
5 アフリカ発展の未来はあるか

### 2 単元目標

- ・アフリカにおける食料問題は、急増する人口、砂漠化、植民地支配された歴史、不安定なモノカルチャー経済などの影響を受けて、他地域よりも深刻化していることを理解する。
- ・地図（帳）やグラフをもとに、アフリカの人口の変化のようすや気候・資源・紛争地域の分布を理解する。
- ・アフリカ州の自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源などの地域を特徴づける要素に着目して、食料問題や地域の将来などについて多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野に食料問題の要因や影響を主体的に追究しようとする態度を養う。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・アフリカにおける食料問題は、急増する人口、砂漠化、植民地支配された歴史、不安定なモノカルチャー経済などの影響を受けて、他地域よりも深刻化していることを理解している。</li><li>・地図（帳）やグラフをもとに、アフリカの人口の変化のようすや気候・資源・紛争地域の分布を理解している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・アフリカ州の自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源などの地域を特徴づける要素に着目して、食料問題や地域の将来などについて多面的・多角的に考察し、表現している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野に食料問題の要因や影響を主体的に追究しようとしている。</li></ul>

### 4 単元構想

#### （1）教材について

今年度、本校社会科部では「持続可能な社会の実現」を学年・分野間を貫くテーマとして設定している。本校の未来総合科（総合的な学習）での学習内容である「SDGs」の視点から考えると『持続可能な社会』は、価値のせめぎ合いや、価値の表裏一体という面がある。例えば「環境破壊・保全とエネルギー開発」「人権尊重・侵害と平和維持・崩壊」などである。このような価値観を事例を通して多面的・多角的に考察した時に、「様々な考え方がある」という汎用的概念の形成をねらう。1年次地理的分野「アフリカ州」についての学習では、「なぜ、アフリカ州は農業人口が多いのに食料問題が深刻化するのか」という単元を貫く問い（課題）を追究することとする。

単元を貫く問い（課題）を追究するために、焦点化された事例として「ガーナ・コートジボアールのカ

カオ農園を営む人々」を扱う。このカカオ農園を営む人々には、食料問題が深刻化している課題がある。だからこそ、本事例を自然環境、人口、産業、歴史の視点で多面的・多角的に考察することで、アフリカ州の諸課題を浮き彫りにしていく考察、説明の学習ができると考えている。このようにアフリカ州固有の要素により食料問題が深刻化している近年であるが、外国企業の進出が著しい地域となっている現状もある。単元のまとめでは、「外国企業主導で開発や発展を進めていくことは、アフリカの未来にとって明るいことなのか」という関心をもたせ最終年次の学習につなげたい。また、このように関心を持たせるためには、アジア州の既習事項から先進工業国と発展途上国、環境保全と経済発展を対立軸とした両者の幸福を実現する社会のあり方に迫っていくことが大切と考える。そして「人口が多く、資源に恵まれたアフリカは世界が注目する地域である。一方で、解決すべき課題も多く、特に現地の人々の生活を守りつつどのような開発を進めていくかが大きな課題である」ことを概念として獲得することを目指す。

## (2) 生徒について

学習課題には概ね意欲的に取り組む姿勢をもっている。個別の事象を理解する力や資料を読み取る力の基礎的な力も身に付いてきている。しかし、単元を貫く問いに迫るためには、それらの知識を関連付けたり活用したりする力が必要である。その点では大きな個人差が見られ、知識を関連付けて概念を獲得するにはいたらない生徒もいる。本単元で例えるならば、アフリカ州の人口が急激に増えていることを資料から読み取り、その原因を考えたり理解したりすることはできても、地域で見られる課題の要因などについて、単元の学習で得た知識を結び付けて説明することができないことが予想される。

そこで、本単元では、アフリカの自然環境、人口、歴史、産業、紛争を、ガーナのカカオ農園を営む人々の食料問題を焦点化された事例として単元を構造化し、個別の事象を関連付けていこうと考えた。さらに、アフリカ州の地域的特色を学習した後の最終時間に、「なぜ、近年アフリカに進出する外国企業が増えているのか」という問いのもとで理由を考察し、アフリカ州の地域的特色を多面的・多角的に理解することを目指したい。

## (3) 指導について

地理的な見方・考え方は「社会事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて」とある。

社会科における「地理的な見方・考え方」、「問い」、「視点」について、視点を明らかにし、「問い」を使って、「見方・考え方」を働かせることが通常である。特に、アフリカ州は、「空間的相互依存作用」や「地域」に着目して考察・表現の学習活動をする。したがって、視点①「空間的相互依存作用」の問いとしては「そこは、そこ以外の場所とどのような関係をもっているのか」「なぜ、そのような結び付きをしているのか」となる。また視点②「地域」の問いとしては「この地域は他の地域とはどこが異なっているのか」「将来、どのような地域にすべきか」となる。

具体的には、地球規模の課題である食料問題を主題として、「アフリカ州の食料問題」をガーナ、コートジボアールのカカオ農園を営む人々の生活に焦点を当て、カカオ農園を営む人々の食料問題を考察しながら、アフリカ州の諸課題を浮き彫りにして、アフリカ州の地域的特色を理解するようにしたい。その際、食料問題を引き起こす原因として、カカオ農園の人々にとって「人口の増加」「砂漠化」「植民地支配された歴史」「不安定なモノカルチャー経済」「民族紛争」が、どのような結び付きをしているのかを考察

する。授業が進む過程で、5つの要因の中でも互いに結び付きあっている要素があることも学習したい。そして、アフリカ州の食料問題は、5つの要素が主な原因になっているので、他の地域の食料問題とは異なり解決することが非常に難しいことも学習したい。単元の終わりには、アフリカ州の明るい未来を地域的特色から予想する時間がある。これは「アフリカ州を将来、どのような地域にすべきか」につながる時間であるが、本単元では既習事項であった中国の外国資本による経済発展の光と影という概念的な知識を活用して、予想だけに留めるようにする。しかしながら、本単元の既習事項であるアフリカ州の地域的特色を活用する場面を設定することで、「思考力、判断力、表現力等」の育成を図ることができると考えている。

参考文献：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会科編 文部科学省 2019年  
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会  
文部科学省 国立教育政策研究所 2020年

## 5 単元構造図（別紙）

## 6 単元の指導計画（全5時間）（○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

	ねらい・学習活動	知	思	態	評価基準（・評価方法）
第1時	①【ねらい】アフリカ州では食料問題が深刻化している事実に気づく。その原因を予想し、アフリカの地域的特色を追究するための固有の要素を予想する。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカのイメージを出し合い、その1つである貧困や飢餓に着目し、食料不足の分布図や穀物自給率などの資料を読み取り、アフリカ地域では食料不足が深刻化していることを理解する。</li> <li>・アフリカで食料問題が深刻化している原因を予想し、どのような視点から追究していくか学習の見通しをもつ。</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食料不足の分布図や穀物自給率を読み取り、食料不足の現状を理解している。</li> <li>● 食料問題を引き起こすアフリカ固有の要素を見つけ出し、学習の見通しをもって</li> </ul>
<p>【学習課題：単元を貫く問い】なぜアフリカは、農業人口が多いのに食料問題が深刻化しているのだろうか。</p>					
第2時	②【ねらい】アフリカの食料問題の原因を、この地域の自然環境と人口の特色から考察する。資料を読み取り、厳しい自然条件や年少人口を中心に急激に人口が増加していることを理解する。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候の分布図や砂漠化のグラフなどの資料を読み取り、食料問題の原因を厳しい自然条件との関りから考察する。</li> <li>・人口の推移や人口ピラミッドのグラフを読み取り、食料問題の原因を急増する人口や労働人口の不足との関りから考察する。</li> <li>・ガーナでカカオ豆の生産に適した熱帯の気候であることを読み取り、なぜ食料不足になるのか疑問をもつ。</li> </ul>		●	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食料問題を気候や土壌などに着目して、多面的・多角的に考察している。</li> <li>● 食料問題を急増する人口や労働人口に着目して、多面的・多角的に考察している。</li> <li>● 2つの事実の食い違いから学習課題の見通しがもてる。</li> </ul>
<p>【学習課題】アフリカで食料問題が深刻化している原因を、自然環境と人口の特色から考え、説明しよう。</p>					

<p style="text-align: center;">第3時</p>	<p>③【ねらい】農業に適した自然環境にあるガーナはカカオ豆の世界的産地であるにもかかわらず、食料問題が深刻である。ガーナはモノカルチャー経済であることを理解し、モノカルチャー経済の問題点からガーナで食料不足が起きている原因を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真資料から、ガーナも労働人口が少なく児童労働が問題となっていることを読み取る。一方で、農業に適した自然環境にあることから、他に食料不足になる原因があることに気付く。</li> <li>・アフリカの輸出品を示す円グラフからガーナと南アフリカ共和国の輸出品を比較し、ガーナの特徴を読み取り、モノカルチャー経済の問題点を考察する。</li> </ul>			<p style="text-align: center;">●</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アフリカ固有の要素により食料問題が引き起こっていることを予想している。</li> <li>● 食料問題をモノカルチャー経済に着目して、多面的・多角的に考察している。</li> </ul>
<p>【学習課題】なぜ、世界の60%のカカオを輸出するガーナやコートジボワールで、食料問題が起きているのだろうか。ガーナの輸出品の特徴から理由を考え、説明しよう。</p>					
<p style="text-align: center;">第4時</p>	<p>④【ねらい】モノカルチャー経済のガーナは食料問題を抱えているのにも関わらず、なぜカカオ豆ばかり生産するのか。その理由を、ヨーロッパによる植民地支配の歴史との関りから考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モノカルチャー経済のガーナの課題(輸出品を増やす、工業化を進める、アフリカ諸国で協力する)が解決できなかった理由を、植民地であったことや紛争が続いたこととの関りから考察する。</li> <li>・アフリカは、なぜ食料問題が深刻化するのか、その原因を学習したことをもとにまとめる。</li> </ul>			<p style="text-align: center;">●</p> <p style="text-align: center;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食料問題の一因であるモノカルチャー経済を引き起こした植民地時代に注目して、多面的・多角的に考察している。</li> <li>○ アフリカ州の地域的特色を基に、アフリカの食糧問題の要因や解決の方向性について多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
<p>【学習課題】なぜ、ガーナは食料不足が起きているのに、カカオ豆ばかり作るのか。その理由を、植民地であった歴史から考え、説明しよう。</p>					
<p style="text-align: center;">第5時</p>	<p>⑤【ねらい】外国企業にとってのアフリカの経済的な価値を考察することで、アフリカ州の地域的特色を多面的・多角的にとらえる。また、アフリカの発展の未来を構想するための問いをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカに進出している企業の推移を示すグラフを読み取り、日本や中国などの外国企業のアフリカ進出が増えていることを理解する。</li> <li>・これまで学習してきたアフリカの地域的特色から、外国企業がアフリカに進出する理由を考察する。</li> <li>・外国企業主導による開発や発展といった現状を基に、アフリカの未来を明るくすることについて考察する。</li> </ul>			<p style="text-align: center;">●</p> <p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">●</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近年アフリカへの外国企業の進出が増加していることを理解している。</li> <li>○ アフリカ州の地域的特色から、近年アフリカへの外国企業の進出が増加している理由を多面的・多角的に考察している。</li> <li>● アフリカ州の未来について、どうすべきかなどの考えをもっている。</li> </ul>
<p>【学習課題】なぜ、近年、外国企業のアフリカ進出が増えているのだろうか。</p>					

## 7 本時の学習

### (1) ねらい

食料問題を抱えている地域の特色に着目して、近年アフリカへの外国企業の進出が増加している理由を多面的・多角的に考え、地域の将来を見通すような表現できる。

### (2) 展開

	学習活動	指導上の留意点（・） 評価の観点（○）
導入	<b>1 前時の学習のふり返し</b> 単元の問い「なぜ、アフリカ州は、農業人口が多いのに食料問題が深刻化するのか」を追究した結果（学習のまとめ）を発表する	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自然環境，②人口，③産業，④歴史，⑤紛争の視点に着目することで，地域の特色をより整理しやすいようにする。</li> </ul>
	<b>2 資料の読み取り</b> 近年，アフリカに進出する外国企業が増えていることを知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフリカ州に企業が進出している客観的事実を理解するために，読み取る統計資料等を準備して提示する。</li> </ul>
展開	<b>3 本時の学習課題の把握</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>なぜ，近年，外国企業はアフリカに次々と進出しているのだろうか</b> </div>	
	(1)個人で理由を考える (2)班でそれぞれの考えを共有し，すべての視点から改めて理由を考える (3)発表して全体で共有する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[予想される意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未開拓の地域が多く，広大な土地がある</li> <li>若年人口が多いので，今後は豊かな労働力につながると思われる</li> <li>石油やレアメタルなど豊かな鉱産資源が得られる</li> <li>ヨーロッパとのつながりを貿易に活用できる</li> <li>近年は紛争が減り，外国企業が進出しやすくなった</li> </ul> </div> <p>・資源に恵まれ，人口が多く，今後豊かな労働力や消費力をもつことになるアフリカは世界が注目する地域であることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料問題を抱える地域の特色に着目して，学習課題の探究がしやすいように，5つの資料を提示し，既習事項の喚起をうながすようにする。</li> <li>○外国企業にとっては，アフリカの地域的特色を形づける諸課題も，別の付加価値により魅力や期待できる要素になることを理解している。</li> <li>○5つの視点で外国企業の立場でアフリカの地域の特色を捉え直し，企業進出の理由を説明できる。</li> </ul>
まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>外国企業主導の開発や発展は，アフリカの人たちの明るい未来につながるのだろうか</b> </div>	
	<b>4 学習のまとめ</b> アフリカの経済発展には，解決すべき課題も多く残されていることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア州を例に出すことで，経済発展の光と影について疑問を投げかけ，第3学年での学習につなげる。</li> </ul>